

希望と情熱に満ちた歯科医療の実現を誓う

—「若い歯科医師のための Oral Physician 育成セミナー」開催される—

2008年11月23日(日)、冬型低気圧の訪れに伴いそれぞれ混じりの冷たい雨が降りしきるなか、東北の外れの港町、山形県酒田の地に今冬も全国からおよそ50名以上の卒業生もいない歯科医師および歯学部学生等、若い歯科医療関係者が集まった(満席)。彼らの目的は本院(日吉歯科診療所)で開催される「若い歯科医師のための Oral Physician 育成セミナー」に参加することである。

本セミナーは、世界でも類をみない日本独自の「治療」を中心とした歯科医療システムのドグマに

染まっていない若い歯科医師に対して、歯科医療の哲学とその真の目的を伝えることを主眼とし、本院にて年2回無料で開催されているものである。

今回のセミナーにおいては、本院院長の熊谷崇により「歯科医療哲学」が語られると同時に、参加者と同世代である本院勤務医および元勤務医がその実践の様子を紹介した。あいにくの悪天候にもかかわらず、参加者は希望と情熱に満ちた熱い思いを携え酒田の地を後にした。

加藤大明(山形県・日吉歯科診療所勤務)

●スタートの重要性を実感

「スタートの重要性」…私が日吉歯科診療所で開催された、「若い歯科医師のための Oral Physician 育成セミナー」に参加して、とても強く実感したことでした。

歯科で予防を小児の頃から実施することが、将来の歯・口腔の健康に効果的なように、歯科医師も若いときから積極的に、予防をはじめとしたさまざまな知識を習得し、実際に多くの経験を積むことが、みずからが将来行う歯科医療を方向性を決めるうえでとても大切な要素だと思いました。

私も歯科医師の免許を取得し、スタート地点に立ったばかりです。しかし、そのような未熟な状態だからこそ、熊谷先生のような予防を重視し、従来の削って詰めるだけの歯科の考え方は異なる、患者さん本来の利益を追求したビジョンをもち、自分の理想の歯科医師像または歯科医院に近づけるチャンスが多いのではないのでしょうか。

私はそのチャンスを最大限に活かし、そして、将来は予防を中心とした丁寧で、質の高い診療を心がけ、患者さん達の素敵な笑顔をたくさん咲か

せてみたいと望んでいます。

このセミナーに参加して素晴らしい話を聞くことができたことはとても幸せで、歯科医師としての最高の「スタート」でした。

川邊滋次(日本歯科大学・研修歯科医)

●将来に「良かった」と思える歯科医療を目指して

私は、以前から熊谷崇先生の執筆された著書等を読み、日吉歯科診療所はどのような診療所で、熊谷先生とはどのような人なのだろうか知りたいたと思っていました。そうした思いを抱いていたときに、学内の講演会にて、熊谷先生のお話を聞く機会があり、そこで今回の「若い歯科医師のための Oral Physician 育成セミナー」を知り、参加することを決めました。

セミナーでは、午前中、熊谷先生による「日本での歯科医療の現状、望むべき方向性」「全国と酒田市の口腔内の状況の比較」「日吉歯科診療所の現状、これから」「欧米の偉大な先生の視野の広いお言葉の引用」「Oral Physician の考え方、現実的な必要性」等のお話がありました。その後、診療所の見学、説明があり、午後は、勤務医の先生による「Oral Physician」の概念、診療所での導入体制の説明がありました。さらに、「Oral Physician」を導入している開業医の先生のお話、日吉歯科診療所に勤務していた開業医の先生のお話があり、最後に熊谷先生が総括をされました。

日吉歯科診療所のように地域の口腔内の状況、健康観を根本から改善することはとても困難なこ



とですが、私自身の生活に充実感を与え、豊かで楽しいものにしてくれる仕事になると思います。そのために、私自身としては、患者さんの笑顔を見られるよう、できるだけ自分に厳しく、日々研鑽していくことに努めようと思えました。

市場正訓（日本大学歯学部・研修歯科医）

●長期的な目で患者さんの真の利益を追求したい

2008年11月23日、日吉歯科診療所で行われた「若い歯科医師のための Oral Physician 育成セミナー」に参加させていただきました。午前は熊谷崇先生による Oral Physician やメディカルトリートメントモデルについての講演や診療所内の見学、午後は日吉歯科診療所で研修医をしている先生や以前研修医をしていた先生の講演などがありました。熊谷先生の講演は今までも何度も聞いたことがありますが、何度聞いても熊谷先生の熱い話には本当に胸を打たれます。医の倫理がそこにはあるように思います。

車・テレビ・パソコン・携帯電話など、競争の激しいものは日々着実に進化を続けている一方で、一律の保険点数で、競争原理も働かない、十分な情報提供も必要としない歯科医療という分野は、遅れをとってしまっているということを感じました。口腔領域の二大疾患である齲蝕と歯周病の病因論は明らかにされていて、適切な介入によってコントロールが可能になっているにもかかわらず、日本ではこれだけ多くの人がこの二大疾患によって歯を失っているという事実には、歯科医療者は強い危機感と罪悪感をもたなくてはならないと改めて感じました。保険制度や目の利益にとらわれず、長期的な目で患者さんの真の利益を追求した医療をしたいと強く感じました。

徳本萌（東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科4年）

●歯科医療者としての未来予想図

社会的なニーズの変化等、さまざまな背景の下、現在、歯科衛生士教育は変革期にあると思います。私は、歯科衛生士の4年制大学1期生として口腔保健学について学び、そのような変革をほんの一部ですが目の当たりにしてきました。もちろん、4年制に移行したからこそ学べることも多くあり、その環境は恵まれたものでしたが、先生方の熱い思いによるさまざまな講義等をもってしても埋めることのできない、期待と現状のギャップからくる閉塞感のようなものを感じていました。そのような思いを抱えていた私は、それを何とか打破できないかと思い、本セミナーに参加しました。

セミナーでは、熊谷崇先生をはじめとする講師の先生方から、Oral Physician の理念、歯科医療の展望などを聞くことができました。参加した誰もが何かしらの気づきや発見があったと思いますが、私にとって一番の収穫となったのは、歯科界にかかわる者としてみずからの未来予想図を描けたことでした。このセミナーで学んだことをみずからの努力で実践し、体現していくことで、未来をつくりあげていきたいと改めて感じました。

患者さんに対しても、勤務する歯科医院に対しても、社会に対しても、誰かが何かをしてくれるのを待つのではなく、自分が何をできるかを考えることが大切だと知りました。歯科衛生士というライセンスをどう活かすかは自分次第であり、その評価をどのように得、そして伝えられるか…そのようなことを考え、実行しながら、夢や希望をもって働くことができる歯科衛生士を目指したいと思います。少し前の私のように悩んでいる人、先が見えず前に進めないと思っている人にこそぜひ受けてほしいセミナーです。

高山奈穂子（歯科衛生士）



2009年度「若い歯科医師のための Oral Physician 育成セミナー」開催予定

日時：3月22日（日）（キャンセル待ち）
11月15日（日）

場所：山形県酒田市・日吉歯科診療所

申込先：SAT 事務局 <http://www.sat-iso.net>

Tel. 03-5808-2505, Fax. 03-5808-2506